

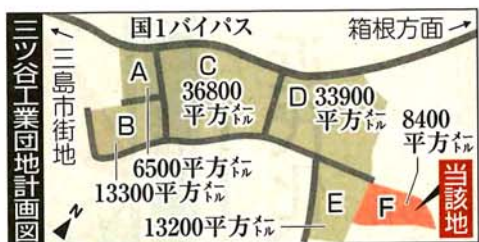
平成30年(2018年)11月1日(木曜日)

内定企業事実上の撤退

三島の三ツ谷工業団地から産廃物

三島市は31日、土地区画整理事業で造成中の三ツ谷工業団地に進出が内定していた日本ベルト工業(沼津市)が、進出を断念したと発表した。同社が購入予定だった区画に産業廃棄物が埋設されているのが見つかり、開発事業者と対応を巡って協議したが不調に終わった。事実上の撤退となる。

市によると、見つかったのは若やコンクリート片で、深さ1〜3メートルのところに広範囲にわたり点在しているの



が確認された。過去の地権者が農地造成した際のものともみられるが、記録がなく、詳細は不明という。

日本ベルト工業は開発事業者のエムケー(東京)に埋設物の撤去を求めたが、撤去には2億円近い費用がかかると判明。採算を考慮するエムケーと折り合わず、協定を解消した。一方でエムケーと市は、土壌汚染の恐れがないことから、産廃物を掘り出さな

今後も同区画への企業誘致を継続する方針。

当該区画は8400平方メートルで全6区画のうち

誘致目標は実現困難に

日本ベルト工業の事実上の撤退で、三ツ谷工業団地の進出内定数は5区画から4区画に後退した。豊岡武士市長は工業団地の造成工事完了までに全6区画での誘致成功を目指していたが、実現困難な情勢になっている。

地域経済の底上げや雇用確保を重視する豊岡市長は同工業団地の整備を三島駅前再開発と並ぶ市の最重要課題に掲げている。県から担当副市長を招へいし、機構改革も行った。今回撤退が決まった区画とは別の進出未定区画についても関係者は「誘致のハードルは相当高い」と指摘する。広さが3万平方メートル以上

ち5番目の規模。日本ベルト工業は本社機能を移転する予定だった。市によると、他区画の状況については「調査済みの箇所もあるようだが現時点で同様に産廃物が見つかったとの報告はない」としている。

同工業団地の整備は約21・1畧の大型事業。市と県が補助金計4億5千万円を拠出している。

あり、土地購入だけで15億円、設備投資を含めると50億円前後に上ると見込まれる。誘致する側は対応を迫られる。市によると、同工業団地の造成工事完了は天候不順が影響し、早くて年末ごろの見通し。もともとは今秋を予定していた。